

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 南曾根 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

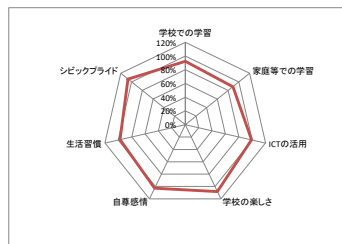
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能を問う問題については、平均正答率を上回っている項目が多く、授業で学習したことの定着が結果に現れていると言える。思考力・判断力・表現力等を問う問題については、平均正答率を下回る項目が多かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「我が国の言語文化に関する事項」や「情報の扱い方に関する事項」に関する問題	
	努力が必要な問題	「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に関する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	選択式の問題については、他の問題に比べて平均正答率が高くなっていたが、データを活用する問題や、記述形式で答える問題については正答率が低く、苦手意識をもっている生徒が多いことがうかがえる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「数と式」や「関数」に関する問題	
	努力が必要な問題	「図形」や「データの活用」に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・学校での学習についての項目で、肯定的な回答した生徒は全国平均を下回っており、自分の考えを発表したり、工夫してまとめる活動に苦手意識をもつ生徒が多いと考えられる。
・家庭学習の時間が全国平均を下回っているため、家庭学習の習慣を身につけるための取組が必要である。
・自分にはよいところがある、人の役に立ちたいと答えた生徒は全国平均を上回っており自己肯定感や他者を思いやる心が育っている生徒が多いと考えられる。
・「学校が楽しい」「地域をよくするために取り組みたい」という関連の項目で、肯定的な回答をした生徒が全国平均を上回っており、学校や自分たちの住む地域への愛着をもっている生徒が多いと考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

・単元の最初に学習課題を設定し、自ら進んで課題解決に向かう姿勢を養う。

・ICT機器を活用して、協同的に学ぶ場面を多く設定する。その際、自分の考えや他者から聞いてわかったことなどを整理する時間を設ける。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・自主学習ノート（南中ノート）や補充学習を活用し、授業時間以外の学習時間の増加、定着を図る。

・朝自習テストや朝自習コンクール、南中ノートコンクールを行い、家庭学習の意欲の向上を図る。